

令和4年度九州・沖縄ブロックプラットフォーム  
PPP/PFI推進首長会議 基調講演資料

## 荒尾市における官民連携の取組

快適で便利に暮らせる「スマートシティ」の推進  
市立図書館の商業施設への移転整備

令和4年10月21日

熊本県荒尾市長 浅田 敏彦

# 荒尾市のご紹介



人口：50,479人  
住民基本台帳人口（R4年9月末時点）

高齡化率：36.2%

市域面積：57.37km<sup>2</sup>

# まちづくりの目標と基本戦略

荒尾市の暮らしやすさを最大限生かす  
人口が減少しても 便利で快適に暮らせ 健康で幸せを実感できるまちへ

目標： **暮らしたいまち 日本一**



## 基本戦略

荒尾駅周辺と 緑ヶ丘地区に 都市機能を集約し、

両拠点と周辺地域を公共交通でつなぐ **コンパクト + ネットワーク** のまち

**全世代型のデジタル社会**、便利で快適に暮らせる **スマートシティ** の実現

SDGsを推進し、「石炭のまち」から **ゼロカーボンシティ** へ

基本戦略を踏まえた重点プロジェクト【あらお未来プロジェクト】の成果で、

教育、子育て、医療、福祉、防災など、暮らしの足元を支える

# 行政経営理念の制定 (2020)

市役所の使命は、市民の幸せを創ること。そのために何をすべきか！

行政経営理念 『現場主義の徹底と市役所イノベーション』

職員の 【意識と行動の改革】

議論する 【職場の改革】

市民協働、**産学官連携**、広域連携による 【経営の改革】

# 荒尾市の官民連携の取組

## 快適で便利に暮らせる「スマートシティ」の推進



AIを活用した市内全域での予約型相乗り「おもやいたクシー」  
R2から運行



鏡で自分の健康を管理する実証実験



文化センター屋上でソーラーと蓄電池を組み合わせたエネルギーの最適利用を実現（R2）



有明小で顔認証システムを活用した避難所運営、受付の実証実験



府本小での顔認証システムを活用した登下校の確認と検温の実証実験

# 荒尾市におけるスマートシティの経緯

2017.11

三井物産・グローバルエンジニアリングと「**地域エネルギーの有効活用等を中心としたまちづくりに関する連携協定**」を締結

2019 ~

荒尾競馬場跡地のまちづくりコンセプトを定める「ウェルネス拠点基本構想」の検討をUR、JTB総合研究所と進める中、

2019.5

国土交通省スマートシティモデル事業の公募に応募  
『**ウェルビーイング スマートシティ**』  
「**重点事業化促進プロジェクト**」に選定

2019.8

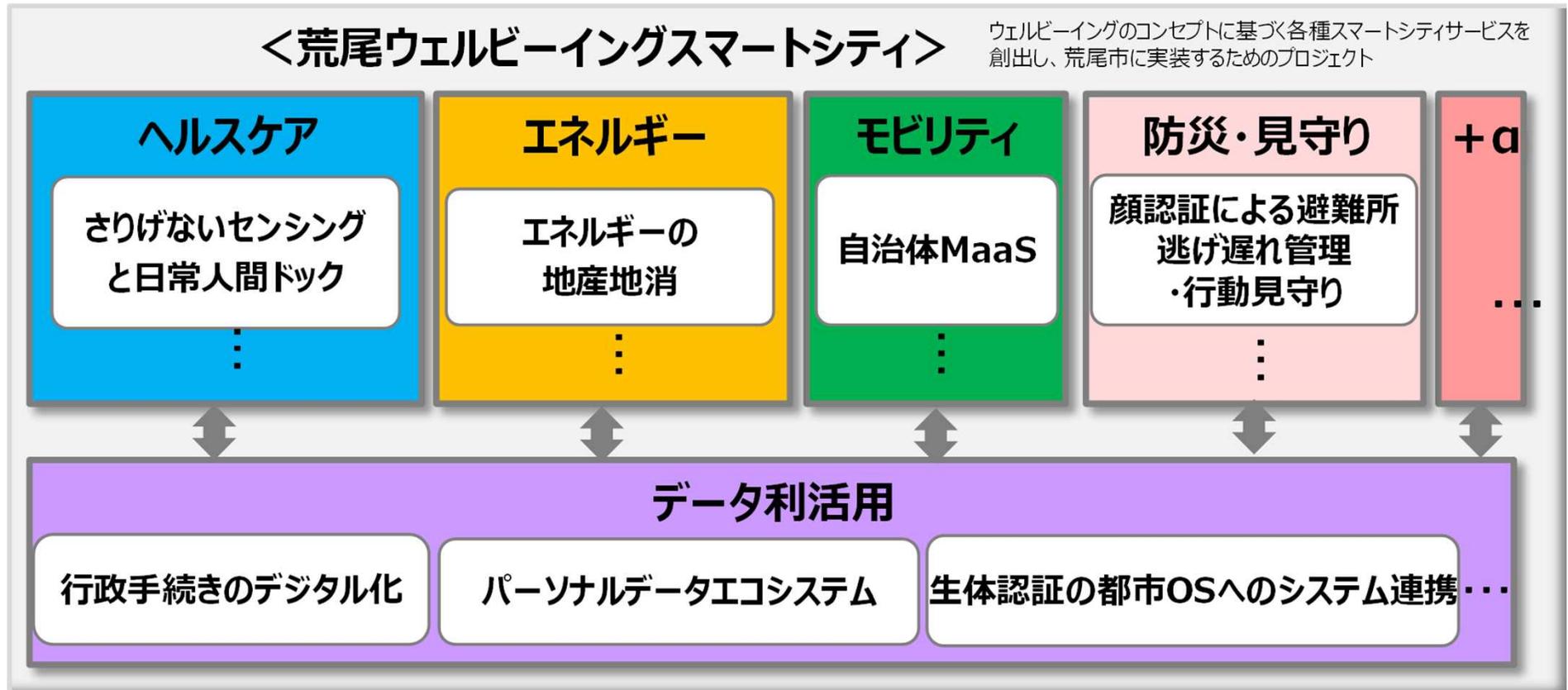
「ウェルネス拠点基本構想」を策定 ➡

「**あらおスマートシティ推進協議会**」を設立

2020.7

国土交通省スマートシティモデル事業「**先行モデルプロジェクト**」に昇格（九州で唯一）

# 荒尾ウェルビーイングスマートシティの全体像



地域の課題を共有した上で、先進技術を活用し、市民や来訪者、地域事業者に快適な生活を提供すべく、実証・実装を進めている。

# スマートシティ推進体制

## あらおスマートシティ推進協議会（官民連携での推進組織）

正会員

荒尾市、JTB総合研究所、グローバルエンジニアリング、三井物産、有明エナジー、NTTドコモ、NECソリューションイノベータ、UR都市機構

基礎インフラ

基礎インフラ部会（土地区画整理状況）

部会代表：荒尾市、UR都市機構

情報プラットフォーム

データ・システム部会

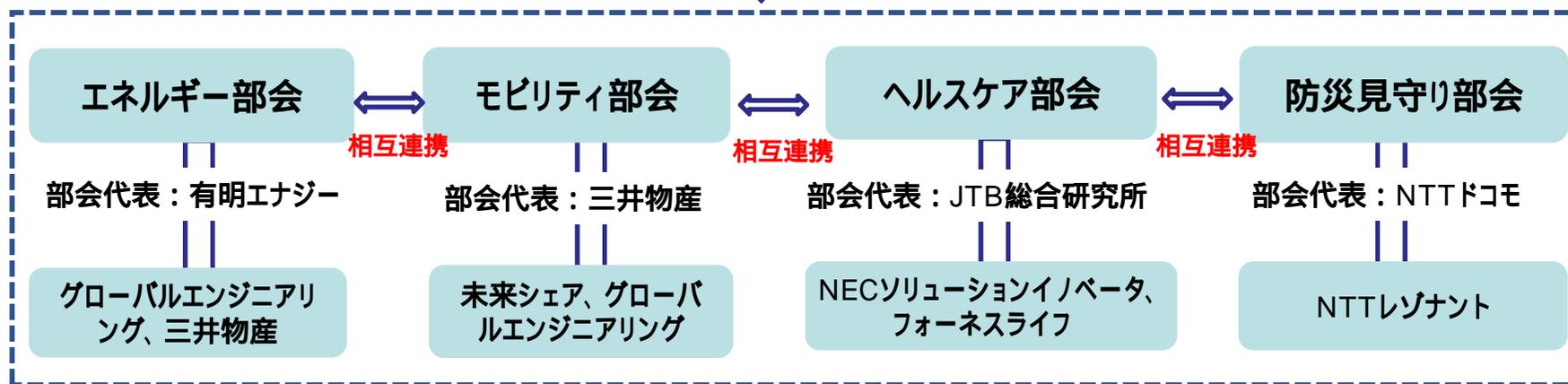
部会代表：JTB総合研究所

サービス

システムインターフェース



相互連携



アドバイザー会員（協議会活動に対する技術的助言等を行う外部有識者）

- ・東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャルICT研究センター
- ・COI東北拠点（東北大学）

サポート会員

- ・ITID

## 【モビリティ】 おもやいたクシーの運行

路線バスを補完する新たな公共交通機関として、タクシー協会と連携し、AIを活用したオンデマンド型相乗りタクシー「おもやいたクシー」を2020年10月から運行開始  
市内どこでも、誰でも（観光等）、いつでも（8時～17時）利用可能 **日本初**  
相乗りを前提とし、**利用料金は通常のタクシーの半額程度** 距離制 300～700円  
車両は**EV車2台**、電力の地産地消と脱炭素にも効果  
利用状況 登録者数、**利用者数とも順調に増加** 利用者 月1,200人  
今年度より、観光や飲食などと連携し、簡単に予約できる「**おでかけアプリ**」を開始  
夕方夜間に、子どもの習い事など**子育て支援タクシー**の実証実験を実施中  
高齢者の**免許証返納**を促進するため、**月定額制**での実証実験を予定



## 【エネルギー】 ゼロカーボンシティ

三井物産、グローバルエンジニアリングの民間2社が出資・設立した地域新電力「有明エナジー」と連携し、**電力の地産地消、最適利用**の取組を推進

公共施設の電力を契約、小中学校照明のLED化など省エネの推進、文化センター等での太陽光発電と蓄電池を活用した**エネルギーマネジメント事業**を官民連携で実施し、使用する電力を大幅に削減

その結果、Jクレジットも活用し、市役所が使用する電力をすべて再生可能エネルギーで賄う『**自治体版RE100**』を2021年から達成！

地球温暖化対策実行計画を昨年度末に策定。今年度、国の**重点対策加速化事業に選定**され、**市民や市内事業者へのソーラーと蓄電池設置費の補助を開始**（5年間）

開発中の**荒尾競馬場跡地**（35ha）では、エリア全体でエネルギーの最適を図り、『**停電しない 災害に強いまち**』を目指している。



文化センター屋上にソーラーと大型蓄電池を設置

# 荒尾市の官民連携の取組

## 荒尾市立図書館の商業施設への移転整備

### あらおシティモールの概要

三池炭鉱の閉山に備え、商業の核として

荒尾市が主導し第三セクターで整備

売り場面積 約 27,000㎡ (2階建て)

営業開始 平成9年4月

運営主体 荒尾シティプラン(株)(第三セクター)

筆頭株主(株)イズミ

市内すべてのバス路線の発着点(バスセンター機能)

各種証明書などを扱う市民サービスセンターが毎日19時まで業務



↓

市民の暮らしに欠かせない、緑ヶ丘中心拠点の中核施設

# 事業手法の特徴

あらおシティモール、紀伊國屋書店と荒尾市の三者で、あらおシティモール内への市立図書館の移転整備・運営に関する協定を令和2年11月に締結。



あらおシティモール  
(現 ゆめタウンシティモールに変更)



協定締結式

民間発注による設計・施工



早期開館 (協定から1年5ヶ月)

「所有」から「借りる」へ



整備費・維持管理費の抑制

運営事業者を事前決定



質の高い図書館を実現



おやこのコーナー



おはなしのへや



みんなのへや と、みんなのひろば



図書館入口



デジタルライブラリーと遠隔授業スタジオ



干潟の広場



学びの部屋



郷土の部屋

写真撮影 佐藤 振一氏

# 新図書館の特長

## コンセプト『学びをつたえる、交流活動とつながる、未来につづく 図書館』

1000坪の広さ、柱がない、ゆったりした空間に

**書店、カフェも併設した滞在型図書館**

**学びを伝える図書館** 郷土資料室、学習コーナー

交流活動とつながる図書館 市民展示、交流スペース、多目的室

**未来に続く図書館** 7000冊の充実した電子書籍と出会える『電子書籍万華鏡』、文化・観光情報が発信できる大型サイネージ、遠隔授業やオンラインセミナーができる『**遠隔授業スタジオ**』のある未来型図書館

( **日本初の本格的デジタルライブラリー** )

小学館と連携し、デジタルまんが偉人伝として「宮崎兄弟」を制作。小中学校の授業に活用予定。



図書館のデジタルライブラリー



遠隔授業スタジオ

# 新図書館の利用実績

(4月開館～9月末までの半年間)

来館者数	17 万人	(従来の 8 倍)
新規登録者数	6 千人	(従来の 6 倍)
貸出冊数	13 万冊	(従来の 2 倍)

## 今後の方針

紀伊國屋書店と連携し、読書人口を増やすとともに、有名作家等の講演会や市民文化活動の支援などにより「本のまち」、「文化のまち」を目指す。

# 事業の効果（商業施設）



図書館が**市民の新しい居場所**となり、特に若い世代の買い物客が大幅に増加  
図書館の移転決定を契機として、**商業施設全体をリニューアル**し、空き店舗も解消  
図書館とシティモールが**お互いの相乗効果**で、にぎわいを創出  
本市の中心拠点に位置付ける**緑ヶ丘地区の拠点機能を強化**

## 荒尾市の今後の官民連携の方針

多くの課題を抱える「地方」は、企業にとって「宝の山」

企業は、技術開発やサービスの展開に、地方とのつながりを求めている。  
しかし、……パートナーがない。

荒尾市の場合、まず、地方の課題を解決するために、必要かどうかを判断。

進めるための前提条件      【共感】 と 【信頼】      お互いの対話が重要！

進める場合は、市が地域や関係団体など必要な調整を行い、連携しやすい環境をつくる。      一つの連携が新たな連携へとつながっていく。

行政だけで、様々な課題を解決するのは限界がある。  
荒尾市は、生活者の視点で新たなサービスや商品を生み出す企業と連携し、実証実験を行いやすい「リビング・ラボ」を目指す。

今後も、民間事業者、高等教育機関等と連携することで、  
市民を幸せにする、新しい価値の創造にチャレンジしていきたい！

**ご清聴ありがとうございました。**